

## 統計処理法講座の連載にあたって

日本生理学会教育委員会

委員長 栗原 敏

最近、会員の方から論文をある学術誌に投稿した際、レフリーから実験結果の統計処理が適切でないので論文を受理できないといわれたという話を聞いた。せっかく素晴らしい実験結果が得られても、適切な統計処理を行っていないために論文が却下されるのは残念である。また、レフリーによっては実験結果の統計処理に関して不相当と思われるコメントを書いてくる場合もある。最近、実験結果の統計処理に厳しい目が向けられている。ある学術雑誌の編集委員には必ず統計学の専門家がいて、統計処理が適切か否かを厳しく審査するといわれている。

統計学の成書は沢山あるが、どの場合にはどの統計処理方法を用いたらよいか迷うことがある。その原因は、我々がやっている研究の実際に即した統計処理の問題を取り上げている成書が少ないことにあると思われる。正しい統計処理は無駄な実験を減らし、誤った結論を導かないためにも必要である。

このような話題が教育委員会で取り上げられ、生理学研究上問題となる統計処理について講座を連載することになり、有田 眞教授(大分医大生理学教室)の推薦で栗谷典量先生(久留米大学医学部小児科)に医学統計処理の問題点について連載をお願いしたところ快諾していただいた。栗谷先生はこれまで医学統計の誤用例を学術誌を対象に調べ指摘されている。統計学講座というと難しく感じられるが、この連載では誤用の例をあげ、分かり易く肩の凝らない解説をお願いした。

この連載を読まれた会員の方から質問があればそれに答えることも考えているので、その場合には日本生理学会教育委員会あてに質問をお寄せいただきたい。